

小児歯科口腔外科

1. スタッフ（平成28年4月1日現在）

科 長（教 授（兼））	森 良之
医 員（准教授（兼））	野口 忠秀
医 員（講 師（兼））	笹栗 健一
医 員（病院助教（兼））	早坂 純一
医 員（病院助教（兼））	岡田 成生
医 員（病院助教（兼））	大谷津幸生
シニアレジデント	1名
非常勤医員	2名

2. 診療科の特徴

小児の特に先天奇形に対する顎発育の誘導や、摂食を中心とした顎口腔機能向上を目的とした専門的な診療を行っている。

1) 診療内容・対象疾患

歯科口腔外科各専門スタッフにて行っている。対象疾患は唇顎口蓋裂（口唇裂・口蓋裂、その他の先天奇形）、授乳障害・幼児摂食障害、小児有病者・障害者の歯科治療などを主に治療している。

2) 診療体制

昨年4月より小児歯科口腔外科を標榜し、唇顎口蓋裂外来、摂食嚥下外来、小児有病者・障害者の歯科治療外来の各専門外来を設けている。

①唇顎口蓋裂外来

口蓋裂患者には出生後早期からホッツ型口蓋床を使用し、哺乳の補助と顎発育の誘導を目的とした治療に務めている。また、口唇裂・口蓋裂のほか顎裂部の腸骨移植術を主として手術担当し、腸骨移植による良好な顎発育の基盤づくりと顎裂部の歯科矯正的歯牙誘導を行い、長期的に良好な顎・咬合機能と形態を付与している。

診療方針：唇顎口蓋裂患者は、出生時から成人に至るまでの成長発育過程で適正な時期に適正な医療を行う必要があり、その上集学的な治療を行うには経験豊富な専門医によるチーム医療が必要である。当院は形成外科、耳鼻咽喉科、小児科、リハビリテーション科、臨床心理士、歯科矯正医など各科診療科の専門医とCleft care team：CCTという治療チームを構成しており、定期的なカンファレンスを開いて意見交換し、適切な医療を提供している。

②摂食嚥下外来

主な対象疾患は哺乳障害を認める新生児や乳児、また、脳性麻痺や染色体異常により食べる機能や飲み込む機能が獲得できない幼児から小児を対象に摂食嚥下指導をご家族とともに行っている。摂食嚥下指導の内容は以下の通りで、食環境の指導（食事姿勢・介助法・食器具の使用法）、食事内容の指導（食形態）、また発達段階に応じた口腔機能の発達・獲得を目的とした機能訓練を行っている。

検査法：患児の被曝を考慮し、必要に応じて嚥下造影検査（VF）を用いた、口腔から食道までの摂食嚥下機能検査を行っている。なお、小児摂食嚥下外来の担当は日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士を獲得した歯科医師、歯科衛生士が対応している。

③小児有病者・障害者の歯科治療外来

一般歯科医院で治療な困難なお子様に対し、外来歯科治療や全身麻酔下での歯科治療を行っている。

④その他小児の口腔外科的手術症例の治療

3. 診療実績

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	229人
再来患者数	1262人
紹介率	62.7%（歯科口腔外科全体データ）

2) 入院患者数

40人

3) 手術実績

全手術件数	
手術症例疾患件数	
埋伏歯	10
唇顎口蓋裂	12
う蝕	7
下顎嚢胞	2
下顎腫瘍	2
舌小帯強直症	2
下顎骨折	2
計	37

手術術式

埋伏歯抜歯	10
顎裂骨移植	9

う蝕治療	7
口蓋形成術	3
下顎嚢胞摘出	2
下顎腫瘍摘出	2
舌小帯形成術	2
観血的固定術	1
抜釘術	1
計	37

4. 事業計画・来年の目標等

1) 紹介外来患者ならびに手術症例の増加

2) スタッフの充実

専属スタッフの増員

3) 学生教育

医学部学生、歯科衛生士学校の学生に対する教育向上
セミナーの開催

4) 研究面・診療での発展

他施設、他科との共同研究の促進
人工材料の応用や、術後の機能充進への取り組みを強化する